資料３－２

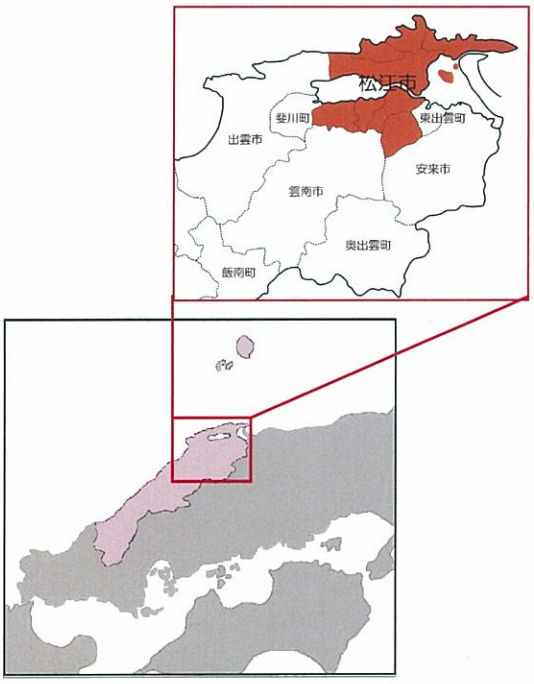
松江市及び大橋川周辺地域の現状

（ 説明資料 ）

松江市の現状ー位置・沿革

・島根県東部、山陰の中心に位置する中核都市
・国際文化観光都市として整備推進
・平成17年３月、旧松江市及び八束郡７町村の合併により新「松江市」誕生

■松江市の位置

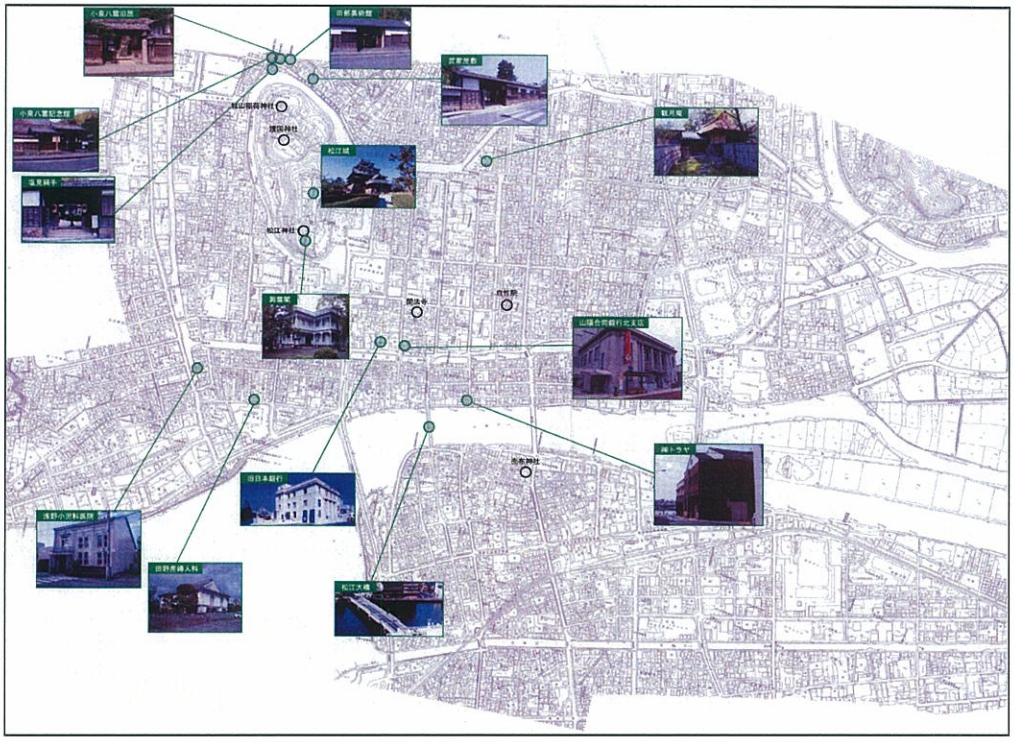


■松江市の沿革

1889年（明治29年）	松江市制施行
1934年（昭和９年）	津田村を編入
1939年（昭和14年）	川津村・朝酌村を編入
1948年（昭和23年）	法吉村を編入
1950年（昭和25年）	大庭村の一部、忌部村を編入
1953年（昭和28年）	生馬村・持田村を編入
1955年（昭和30年）	古江村・本庄村を編入
1960年（昭和35年）	秋鹿村・大野村を編入
2005年（平成17年）	旧松江市、鹿島町、島根町、美保関町、八雲村、玉湯町、宍道町、八束町の合併により新「松江市」誕生

松江市の現状ー歴史・文化

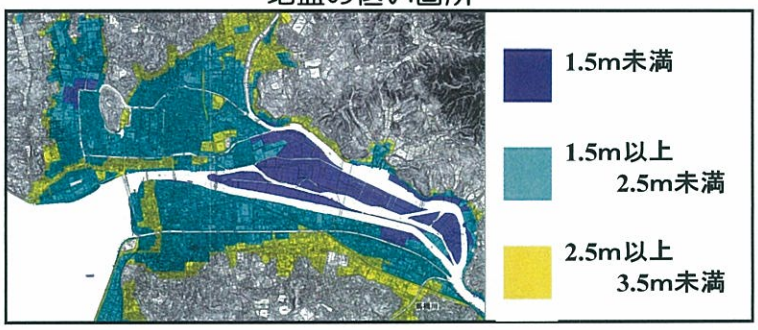
・古くは「出雲国風土記」にもある出雲神話の舞台
・17世紀初頭の松江城築城以来、堀尾氏3代・京極氏1代・松平氏10代の城下町として繁栄
・明治以降、大きな戦災も受けず、木造建築や旧来の街並みが現存



松江市の現状ー自　然

・大橋川を挟む南北に中心市街地を形成
・中心市街地は地盤が弱い
・中心市街地は地盤が低い
・年間通じて曇天が多い

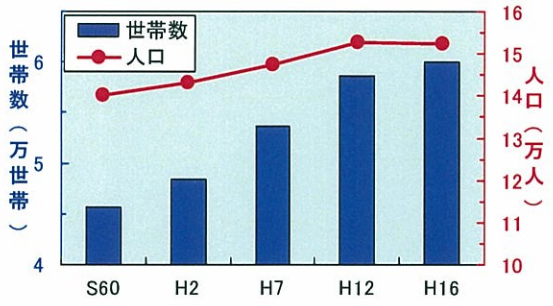
地盤の低い箇所



松江市の現状ー人口動態

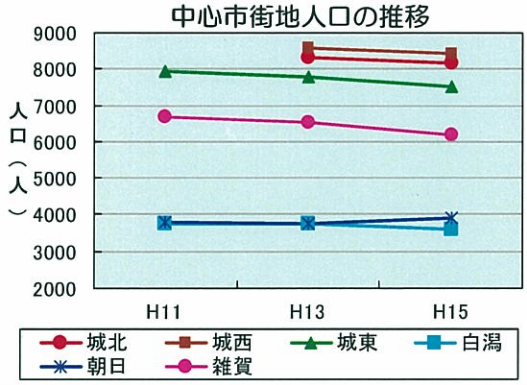
・人口の伸びは鈍化傾向
・少子高齢化率の急激な進行
・１世帯あたりの人口の減少（核家族化の進行）
・中心市街地の人口の減少（中心市街地の空洞化）

人口及び世帯数の推移(旧松江市)

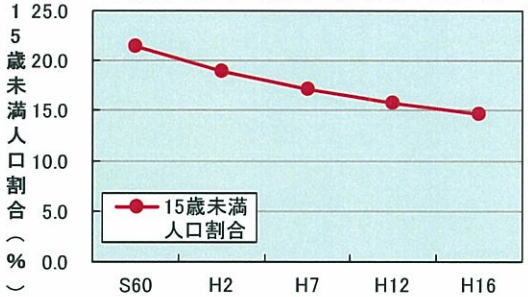


高齢化率の推移(旧松江市)

中心市街地人口の推移



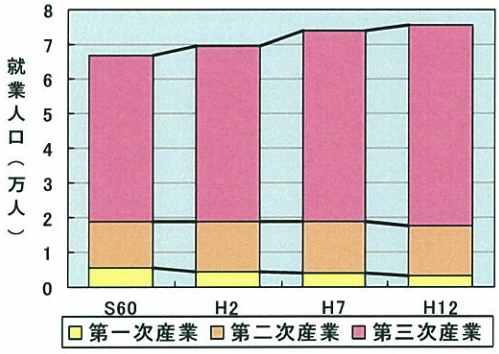
15歳未満人口割合の推移(旧松江市)



松江市の現状ー産　業

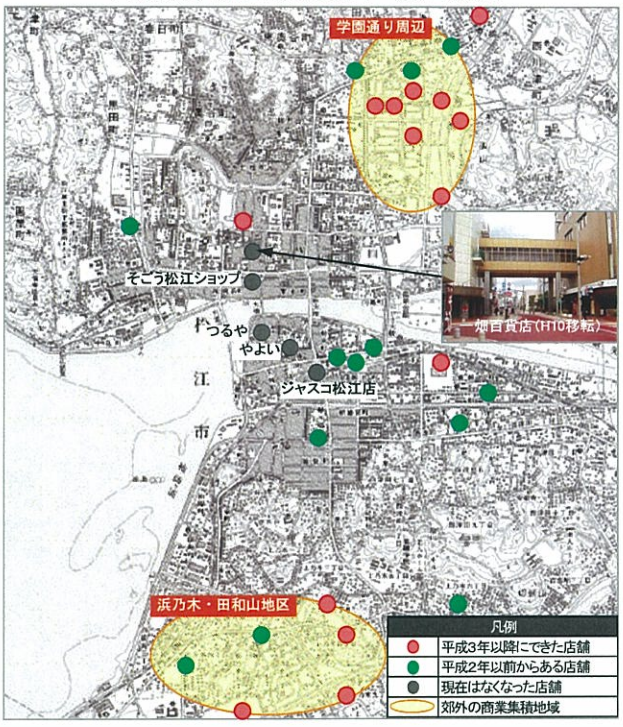
・第三次産業へのシフト
・国内産の約４割を占める宍道湖産の「しじみ」
・郊外、市外への商業の流出

産業別就業人口の推移(旧松江市)



宍道湖のしじみ漁

大規模小売店舗の開店・閉店状況



松江市の現状ー観　光

・豊富な観光資源
・松江市の主要な産業の一つに位置づけ
・年間400万人以上の観光客が来訪(旧松江市)

■松江市の観光要素及び主な観光地

古代文化発祥の地	八雲立つ風土記の丘、神魂神社、八重垣神社・・・
城下町松江	松江城、武家屋敷、塩見縄手・・・
文豪ゆかりの地	小泉八雲、芥川龍之介、志賀直哉・・・
水の都松江	宍道湖の夕日、松江堀川（遊覧船就航）・・・
テーマパーク等	県立美術館、ルイス･C.ティファニー庭園美術館、松江ﾌｫｰｹﾞﾙﾊﾟｰｸ・・・

■年間観光入込客数の推移(旧松江市)

松江市の現状ー都市構造

・非戦災城下町であるため木造建築や旧来の街並み、区画割りが現存
・観光地区、伝統美観地区等の指定
・中心市街地の空洞化が進行

市街地形成の歴史

時　期	事　項
江戸～明治中期	・現在の旧市街地の街並みが形成
～明治末期	・編入合併や宍道湖の埋め立てにより人口が増加
～大正時代	・山陰本線開通　上水道の整備が進む
昭和初期（戦前）	・都市計画区域の指定　旧市街地における土地区画整理事業の実施 ・都市インフラの整備が進む
昭和20年代	・国際文化観光都市に指定
昭和30年代	・郊外と市街地を結ぶ交通網が整備される ・県内、県外を結ぶ期間交通網が整備され、観光客が大幅に増加
昭和40年代	・新都市計画法制定　地域地区の指定 ・郊外における宅地開発、土地区画整理事業が数多く展開 ・観光地区、伝統美観地区、緑地保全区域等の指定
昭和50年代	・住宅団地の開発、店舗の郊外進出が進む
昭和60年代～平成初頭	・少子・高齢化が急速に進展　市街地の空洞化が進む
～現在	・大型店の進出等により中心市街地の空洞化がさらに進展 ・中心市街地活性化基本計画策定　中心市街地の再構築が進む

松江市の現状ー災　害

・昭和47年の大水害をはじめ、過去に幾たびもの水害を経験
・昭和２年から昭和24までの間に４度にわたる大火が発生

松江市の災害履歴

発生時期	災害名称	種類	被害状況	被害総額（百万円）
昭和2年	白潟大火	火災	焼失戸数は440棟、12,800㎡が焼失。罹災者1,058人。	
昭和6年	末次大火	火災	628戸が全焼。	
昭和9年	昭和9年豪雨	水害	室戸台風により橋北・橋南百数十戸が浸水。	
昭和11年	中原大火	火災	252戸焼失。	
昭和18年	昭和18年豪雨	水害	床下浸水1,235戸、床上浸水126戸。	
昭和20年	昭和20年豪雨	水害	枕崎台風により市街地全域浸水。	
昭和24年	白潟大火	火災	全焼209棟、半焼13棟、焼失面積延べ20,000㎡、罹災者851人。	約1,000
昭和39年	山陰豪雨	水害	市街地全域で5,122戸浸水。災害救助法適用。	1,756
昭和46年	昭和46年大雪	大雪	全壊18棟、半壊22棟、作物被害額23百万円、山林被害額34百万円。	496
昭和47年	昭和47年豪雨	水害	市内全域で約20,000戸が浸水、罹災者62,138人。災害救助法適用。	4,820
昭和56年	昭和56年豪雨	水害	床上浸水107棟、床下浸水850棟	698
平成3年	台風19号	水害	半壊33棟、破損2,600棟、罹災者7,888人。	800
平成5年	平成5年7月豪雨	水害	農林業に大きな被害。罹災者35人。	822
平成12年	鳥取県西部地震	地震	市内で震度5弱を記録。軽傷2名、全半壊3棟、一部破損128棟。その他道路陥没、ガス管・水道管の破損が発生。城山の石垣が崩落。	

松江市の現状ー災　害

昭和47年豪雨の状況

大橋川（新大橋～松江大橋）

中の島

国道9号（雑賀町）

内中原町（中橋付近）

松江市の現状ーまとめ

松江市の特性

●山陰地方の中央に位置し、同地方の政治・経済・文化の中心を担う
●都市基盤、産業基盤や教育機関の集積による都市圏を形成
●宍道湖・中海の自然環境に恵まれた水と歴史の都、国際文化観光都市

松江市の現状

位置・沿革
- 島根県東部、山陰の中心に位置する中核都市
- 国際文化観光都市として整備推進
- 平成17年３月、８市町村が合併し新松江市が誕生

歴史・文化
- 古くは「出雲国風土記」にもある出雲神話の舞台
- 堀尾氏３代、京極氏１代、松平氏10代の城下町として繁栄
- 大きな戦災を受けず、木造建築や旧来の街並みが現存

自然
- 大橋川を挟む南北に中心市街地を形成
- 中心市街地は地盤が低い
- 中心市街地は地盤が弱い
- 年間を通じて曇天が多い

人口動態
- 人口の伸びは鈍化傾向
- １世帯あたりの人口の減少（核家族化の進行）
- 少子高齢化の急激な進行
- 中心市街地の人口の減少（中心市街地の空洞化）

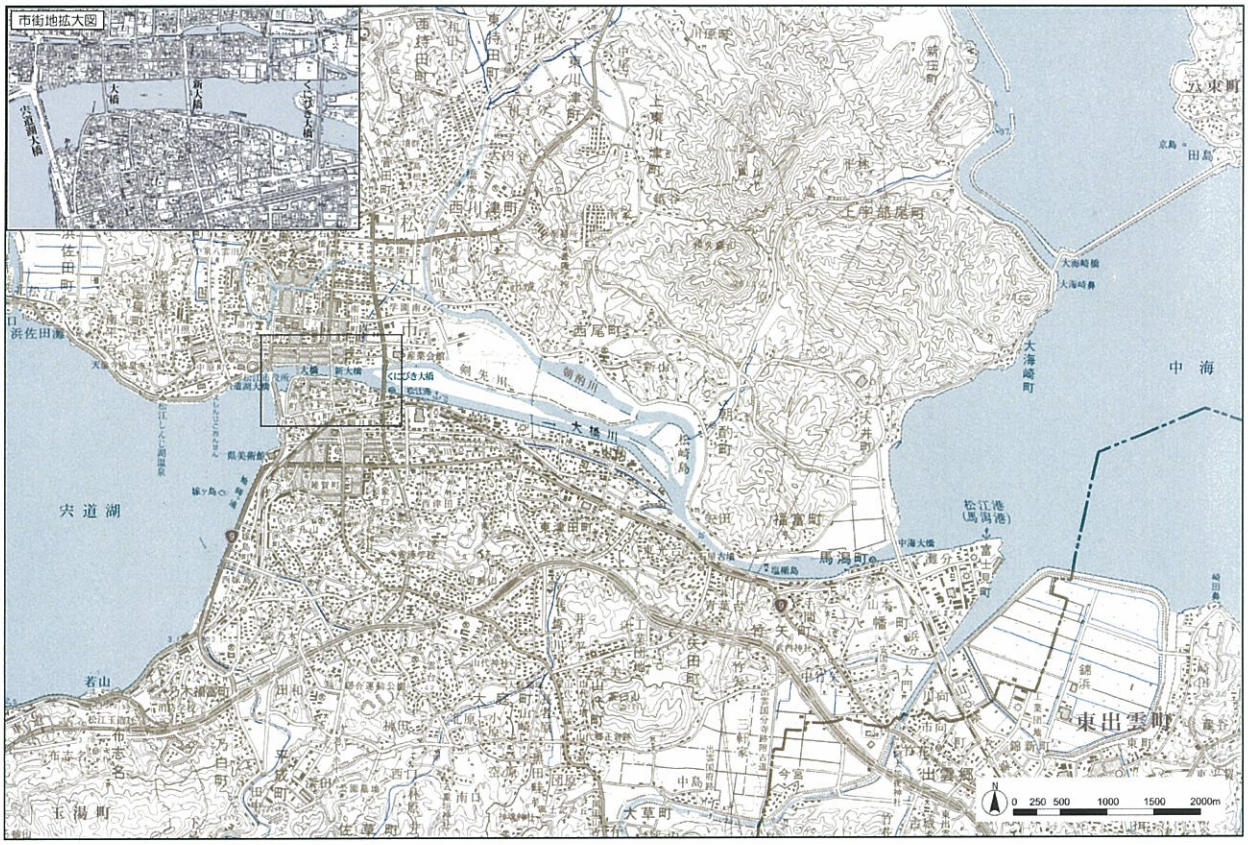
産業
- 第三次産業へのシフト
- 郊外、市外への商業の流出
- 国内産の約４割を占める宍道湖産の「しじみ」

観光
- 豊富な観光資源
- 年間400万人以上の観光客が来訪(旧松江市)
- 松江市の主要な産業の一つに位置づけ

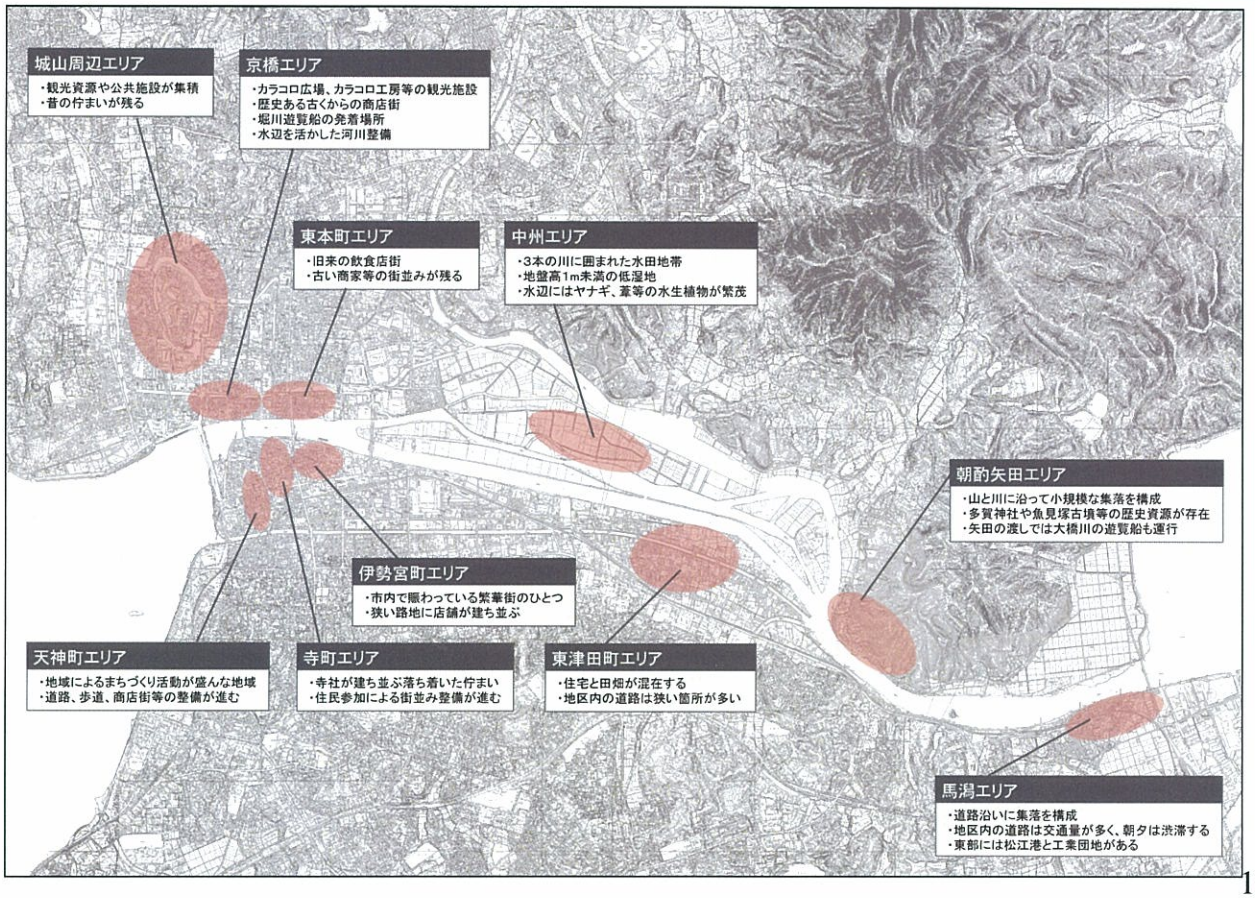
都市構造
- 非戦災城下町であるため木造建築や旧来の街並み、区画割りが現存
- 観光地区、伝統美観地区等の指定
- 中心市街地の空洞化が進行

災害
- 昭和４７年の大水害をはじめ過去に幾たびもの水害を経験
- 昭和２年から昭和２４年の間に４度にわたる大火が発生

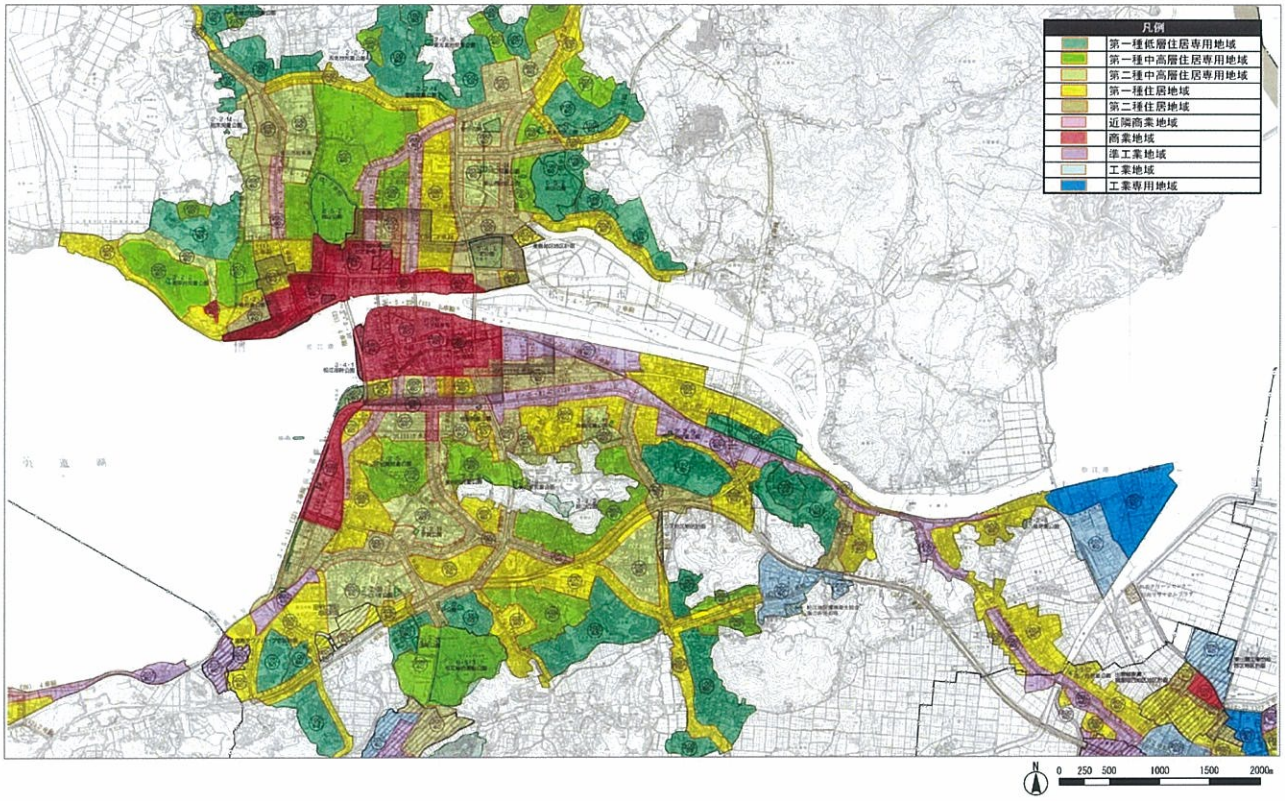
大橋川周辺地域の現状ー位置図



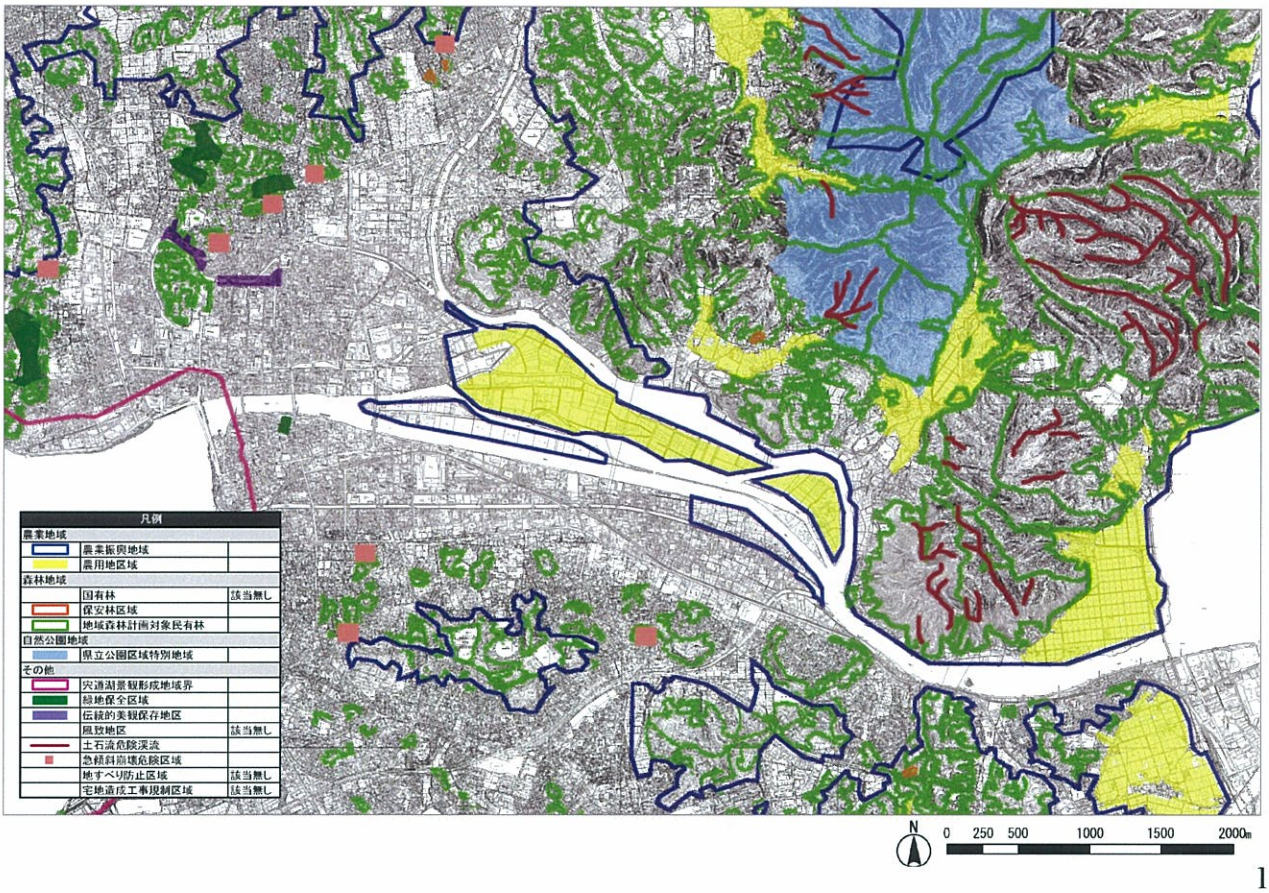
大橋川周辺地域の現状ー地域資源



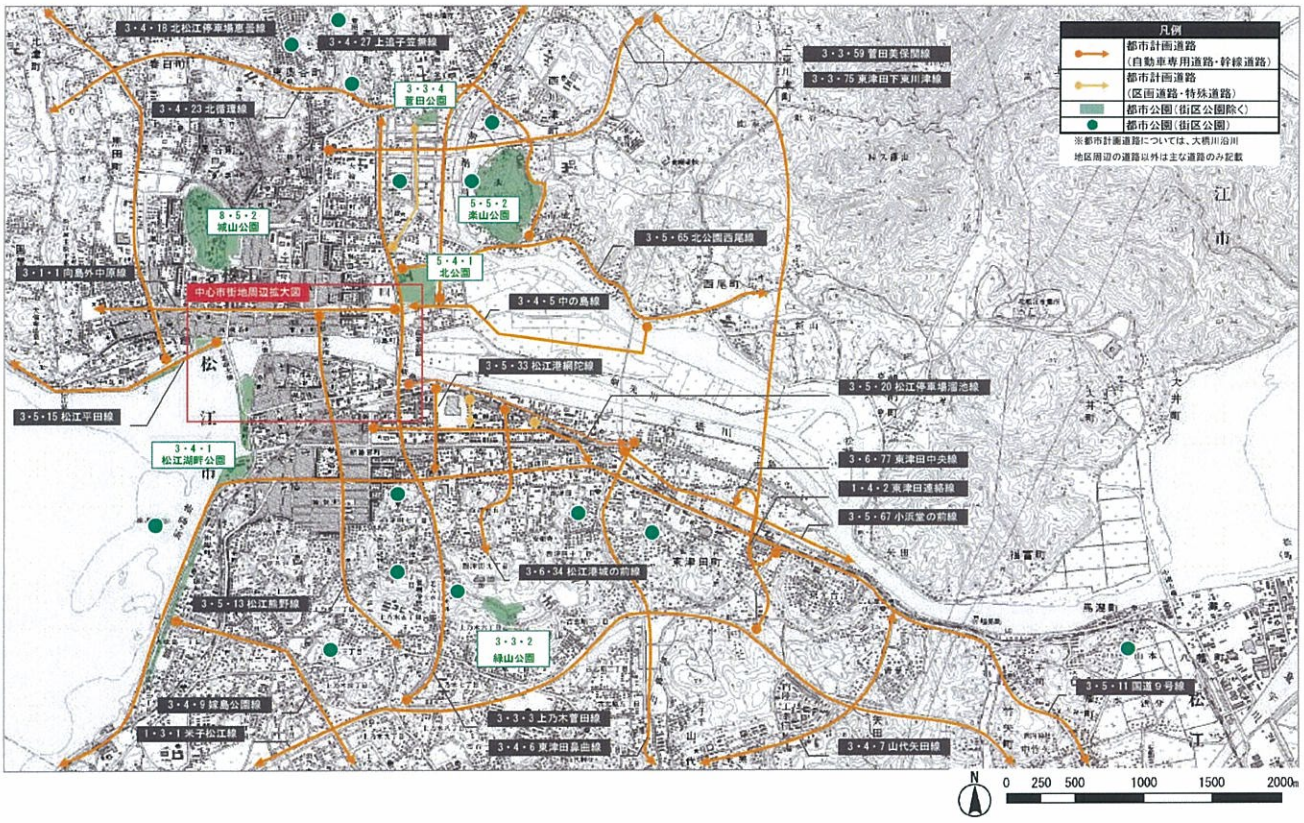
大橋川周辺地域の現状ー法規制（用途地域）



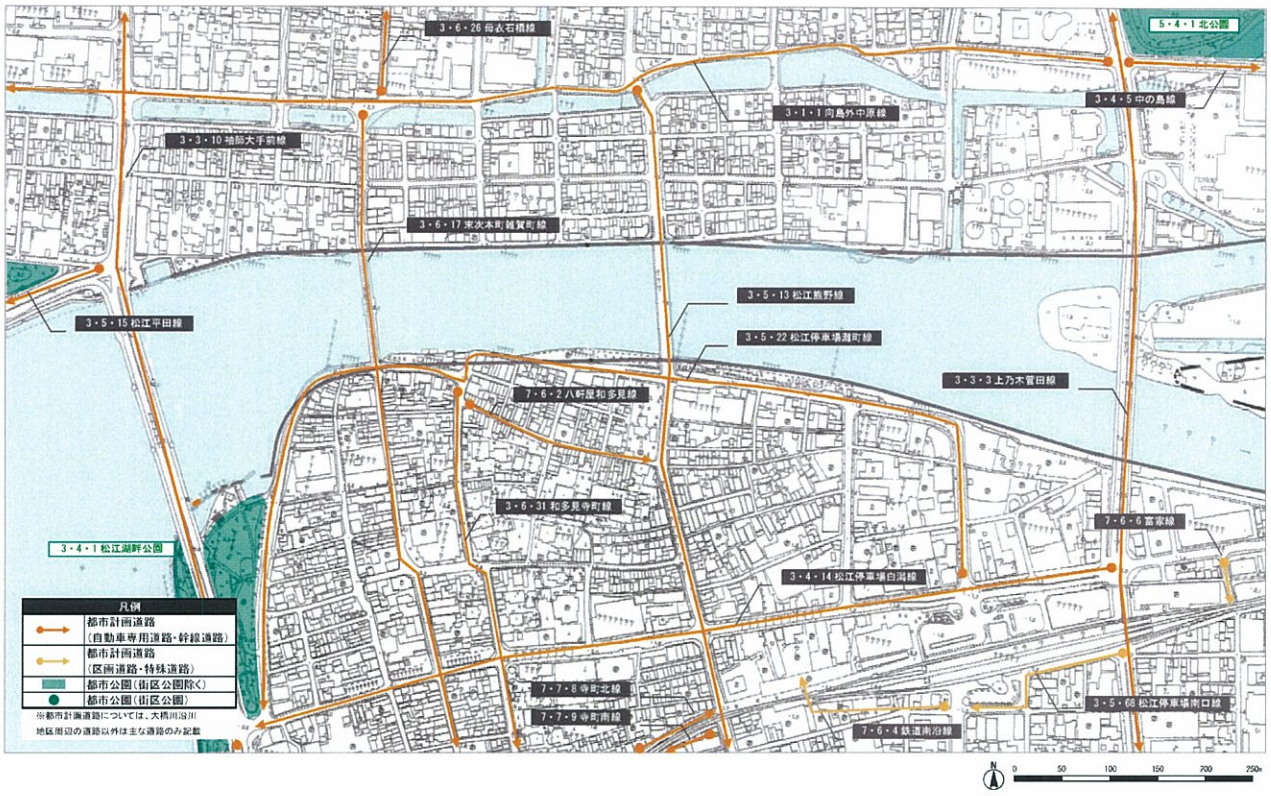
大橋川周辺地域の現状ー法規制（その他）



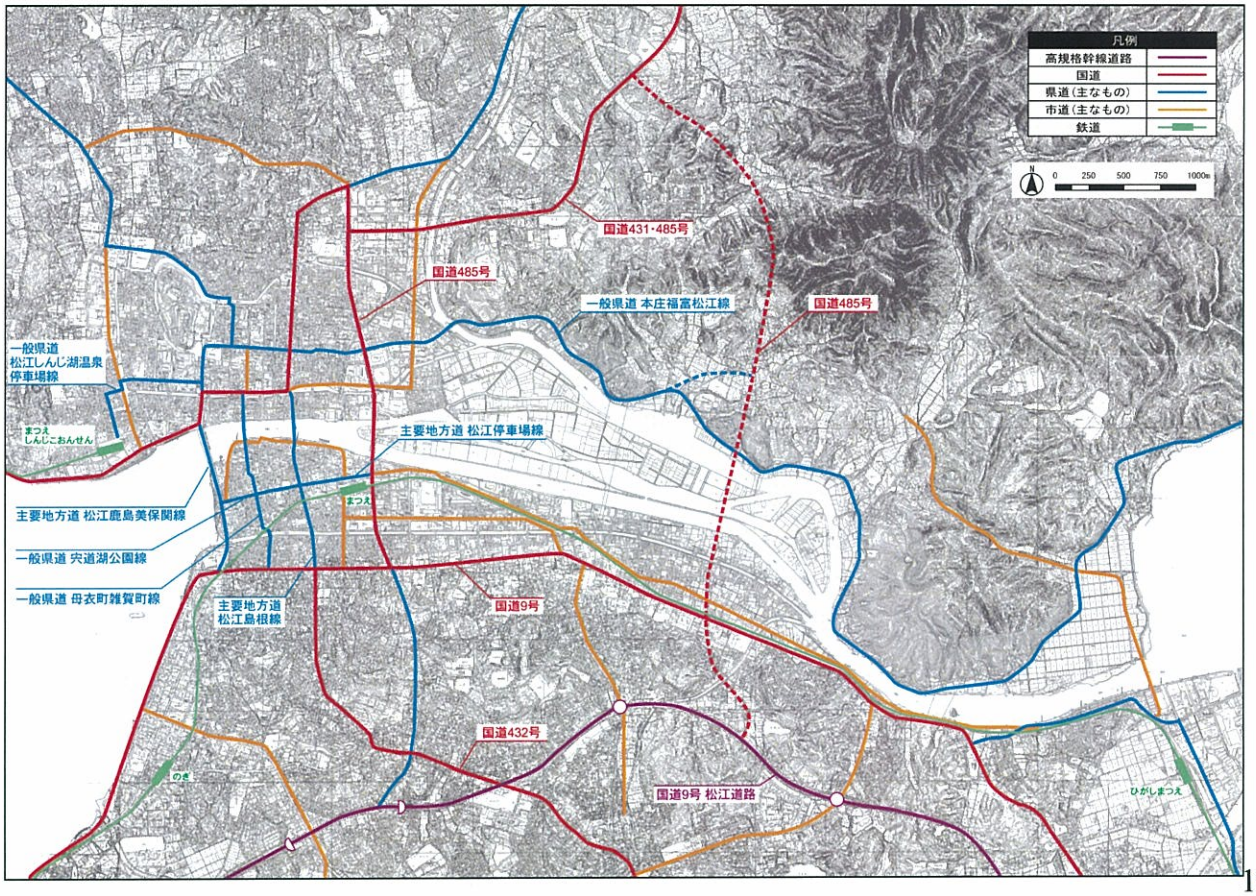
大橋川周辺地域の現状ー都市計画道路・都市公園



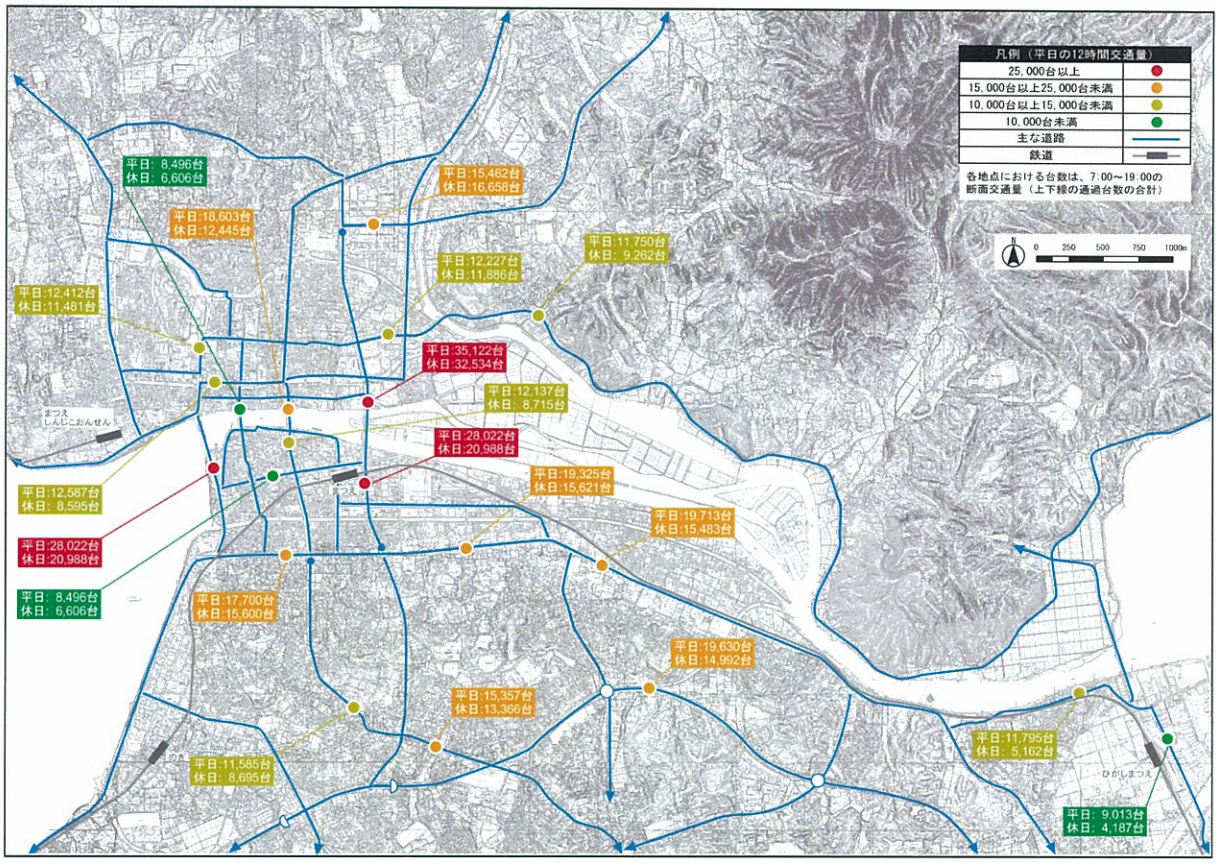
大橋川周辺地域の現状ー都市計画道路・都市公園



大橋川周辺地域の現状ー主要道路網図



大橋川周辺地域の現状ー交通量（平成11年度）



大橋川周辺地域の現状ーまとめ

地理的条件	• 川を挟んで南北に市街地を形成。上流に４本、下流に１本の橋が架かる • 右岸には川沿いに鉄道・道路の基幹交通が整備 • 一部を除いて護岸は未整備で、上流の中心市街地周辺も築堤無し
地域資源	• 沿川に多くの資源を抱えるとともに、大橋川自体が水の都の一つの象徴 • 商業・公共系の主な資源は上流部に集中 • 中流部には都市近郊農村地帯が広がり、宅地化の進む箇所もあるが川に囲まれた中州には水辺の自然が残る • 下流には歴史的資源が点在 • 各エリアにおいてそれぞれ特色のある街なみが形成
都市計画	• 左岸上流及び右岸側の大部分は市街化区域で用途地域の指定 • 左岸の中流～下流域は市街化調整区域に指定 • 中流から下流にかけての左岸の平地の大部分が農業振興地域に指定 • 宍道湖沿岸は「ふるさと島根の景観づくり条例」に基づく景観形成地域に指定 • 上流部右岸にある売布神社が「松江市緑地及び自然環境の保全に関する条例」に基づく緑地保全区域に指定
都市施設の整備状況	• 上流部に比べ、中流・下流域（特に左岸）は整備が遅れている • 中流部では、松江第五大橋の整備が進められている • 地区間を結ぶ東西の道路整備は進んでいるが、地区内及び南北動線が未整備 • 市街地の公共下水道は概ね普及、下流の左岸には農業集落排水が整備
交　通	• 宍道湖大橋とくにびき大橋の交通量が多く、朝夕に慢性的な渋滞が発生

まちづくりに関する上位・関連計画

年	松江圏・松江市を含む広域計画	松江圏・松江市における計画
平成５年		松江市総合都市交通体系調査
平成６年	島根県長期計画	
平成７年		松江市景観形成基本計画
平成８年		松江市都市マスタープラン 松江市総合都市交通体系調査(改)
平成９年	出雲・宍道湖・中海 地方拠点都市地域基本計画	
平成10年		
平成11年		
平成12年		
平成13年		第五次松江市総合計画
平成14年		松江市中心市街地活性化基本計画
平成15年		
平成16年	島根県都市計画区域マスタープラン 島根県総合計画　中国地方の道づくりビジョン	松江市新市まちづくり計画

まちづくりに関する上位・関連計画

上位計画・関連計画における大橋川沿川地域に関する内容

計画名	策定年月	大橋川沿川地域に関する内容	
		対象エリア	主な項目
島根県総合計画	H16.5	全般（広域的）	・斐伊川神戸川治水事業の促進及び沿川地域の生活再建と周辺整備実施 ・洪水や渇水被害の軽減を図るための中小河川改修等の推進 ・市街地と郊外、都市間のアクセス向上
島根県都市計画区域マスタープラン	H15	全般（広域的）	・斐伊川（大橋川）、朝酌川の改修 ・中海・宍道湖の護岸堤整備 ・都市計画道路の整備
出雲・宍道湖・中海地方拠点都市地域基本計画	H9	中心市街地周辺	・松江駅前再整備事業を核として、都市基盤整備、市街地開発及び地域活性化事業等により都市拠点性を高める
中国地方の道づくりビジョン	H16.3	全般（広域的）	・松江第五大橋道路の事業計画
松江市第５次総合計画	H13.10	中心市街地を中心とした全域	・水資源を活かした景観・環境づくり ・中心市街地再生のための拠点整備 ・自然・歴史・文化的景観の保全と活用 ・広域幹線、市内幹線道路網の整備 ・水辺を交通路として活用
松江市都市マスタープラン	H8.10	中心市街地～中州（東西軸を「自然と文化の創造軸」と位置づけ都市機能を集積）	・４つの都市軸に基づく土地利用計画 ・大橋川拡幅に伴う中州の活用検討 ・歩道整備、歴史資源の活用、宍道湖・堀川の活用、市内環状交通網等、次代のまちづくりに繋がる施策を提唱
松江市景観形成基本計画	H7.3	主に中心市街地周辺（観光資源が集積）	・景観形成の６つの柱を定め、住民との協働による取り組みの指針を定める ・河川軸景観を「松江らしさ」の骨格と位置づけ、親水性護岸や河川沿いの歩道、橋梁等の整備推進を計画 ・水辺の整備にあたっては景観との調和を図るべきことを強調
松江市総合都市交通体系	H8	中心市街地～中州（優先的に整備する道路を抽出）	・東環状線（松江第五大橋道路）と、（仮）北公園中ノ島線を優先的に整備する道路として位置づけ
松江市中心市街地活性化基本計画	H14.3	中心市街地周辺	・都市機能の拡充等に加え、「歩いて生活できるまちづくり」を目標として設定 ・TMOやまちづくり組織との協働等のソフト的取り組みに注目
松江市新市まちづくり計画	H16.2	全般	・以前より広域計画に盛り込まれていた事項に加え、住民参加による河川環境の保全・啓発への取り組みを提唱

大橋川周辺地域の現状のポイント

大橋川を挟む南北に市街地を形成

地形的条件

・地盤が低いため常に洪水の危険にさらされている

→ 治水事業の推進による生活安全性の確保が求められている

社会的条件

・少子高齢化及び商業の都心からの流出等によって中心市街地の空洞化が進行している
・中～下流域の都市基盤整備が遅れている

→ 都市機能の向上及び地域の活性化が求められている